

渡りチョウ 六甲山にひらり

周期的に生息地を移動する「渡り」をするチョウとして知られるアサギマダラが、六甲山頂（931メートル）近くの六甲高山植物園（神

戸市灘区六甲山町）に姿を現した。花の間を優雅に舞いながら好物のフジバカマの蜜を吸っている。

伊丹市昆虫館によると、

アサギマダラは夏場、標高千メートル前後の山地で過ごし、秋が深まるこの時期に沖縄や台湾方面に渡る。上昇気流に乗って飛び、千メートル超の移動も確認されているという。春になると南方で生まれた個体が日本に渡ってくる。

同植物園では、フジバカマのほか、オタカラコウやヒヨドリバナの蜜を吸っている。今年は台風の襲来が相次ぎ飛来が心配されたが、例年通り姿を見せた。10月上旬ごろまで見られる。22日は約10匹が確認された。神戸市中央区の女性は「渡りをするチョウを見たくて来た。動きが速く、思い通りに写し止めるのが難しいですね」と熱心にシャッターを切っていた。

（三津山朋彦）

フジバカマに止まり蜜を吸うアサギマダラ
＝神戸市灘区六甲山町、六甲高山植物園